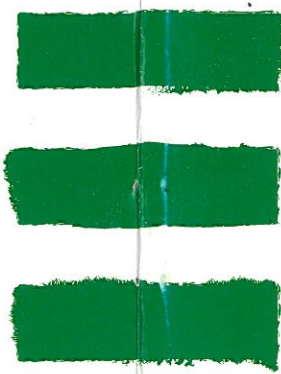


関西で  
HIV陽性の  
結果を受け取った  
経験者の声から



発行日 : 2009年3月31日

発行 : 厚生労働科学研究費エイズ対策研究推進事業  
地域におけるHIV陽性者等の支援に関する研究班 (研究代表 生島嗣)

このインタビューは、  
「関西地区におけるHIV陽性者相談・支援に関する研究」(研究分担 青木理恵子)  
の一環として実施されました。

編集 : 岳中美江、土居加寿子  
デザイン : 中村聖悟

連絡先 : 特定非営利活動法人 ふれいす東京  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46  
ザ・テラス204  
phone:03-3361-8964 (月~土)  
email:info@ptokyo.com

特定非営利活動法人 CHARM  
〒530-0031 大阪市北区菅栄町10-19  
phone:06-6354-5901 (月~木)  
email:office@charmjapan.com

この冊子は、  
財団法人エイズ予防財団 平成20年度厚生労働科学研究費エイズ対策研究推進事業  
「地域におけるHIV陽性者等の支援に関する研究」(研究代表 生島嗣)  
研究成果等普及啓発事業の一環として作成されました。



## 支援のためのリソース

地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト

<http://www.chiiki-shien.jp/>

地域で陽性者等をサポートしている支援者のためのリソースを集めたポータルサイト

近畿ブロック拠点病院

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 先端医療開発センター

<http://www.onh.go.jp/khac/index.html>

近畿のHIV診療拠点。近畿の拠点病院リスト有。様々な資料ダウンロード可。

たんぼぼ

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen/files/tanpopo\\_01.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen/files/tanpopo_01.pdf)

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen/files/tanpopo\\_02.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen/files/tanpopo_02.pdf)

HIV陽性と知ったばかりの人に役に立つ冊子

HIV感染症とカウンセリング

<http://www.hivandcounseling.com>

派遣カウンセリングリスト有

関東甲信越HIV/AIDS情報ネット「制度のてびき」

<http://kkse-net.jp/tebiki.html>

利用可能な福祉制度について。ダウンロード可

陽性者サポートプロジェクト関西

<http://www.posp.jp>

陽性とわかって間もない人のための電話相談等の支援サービスや支援者のネットワーク構築のための活動をするプロジェクト

follow

<http://www.follow-web.com>

ゲイ・バイセクシュアル男性陽性者のための

情報・意見交換や交流の場を提供する相互支援グループ

ブリッジおおさか

<http://www5.plala.or.jp/brosaka/>

HIV陽性者によるHIV陽性者のための非営利の相互支援グループ

CHARM(Center for Health and Rights of Migrants)

<http://www.charmjapan.com/>

性感染症と結核の分野で日本社会のシステムから

孤立しがちな外国籍住民などのサポートをする市民団体

## はじめに・・・

HIVに感染していることを知ったきっかけや、その際に感じたことは個人によって様々です。最初に感染を知る場面での経験がその後の病気の受け止めに、少なからず影響しているように思われます。

どこで感染を知ったのか・・・2007年の大阪府HIV感染者・エイズ患者届出数の合計は188件で、機関別の内訳は、一般医療機関55件(病院32・診療所23)、保健所・保健福祉センター51件、エイズ診療拠点病院46件、公設無料匿名検査機関36件でした。(大阪府感染症情報センター調べ)。このように、感染を知った場所は、保健所や検査機関の無料匿名検査と、医療機関が約半々というのが現状です。

この冊子は、陽性と知った時の経験について、数ヶ月〜8年前に関西地域で陽性とわかった11名の方々にインタビューした話をまとめたものです。個人が特定されないように多少変更していますが、極力本人のありのままの表現を掲載しています。この冊子の「声」は本人の主観を中心にしたものであり、陽性者すべての代弁をしたものでもありません。なお、この「声」に出てくる医療従事者等の対応は、状況や所属により異なるものであることをご理解の上、ご一読ください。

友人、メール、医療従事者や支援者などが陽性結果を受け取った後の気持ちの揺れを支えています。しかし現在、支援環境は整っているとは言えません。この冊子は、具体的な提案をすることを目的としてはいませんが、この「声」を陽性結果通知時の対応や支援を考える上でのひとつの資料として活用していただけたらと思います。

インタビューにご協力頂いた皆さんに感謝いたします。また、ご協力頂くためにたくさんのお声かけをしてくださった方々にもあわせて感謝いたします。皆さんの声が検査場面や支援への一助となることを心から願っています。



## 『陽性の友達に』

匿名希望さん

30代

男性

微熱が続いたので、陽性の友達に言ったら、受けたほうがいいんちがうかということで、その月のうちに保健所に検査を受けに行った。わりとさくっと行った。初めての検査だった。

結果を待っている間にけっこうネットサーフィンをした。ゲイ・ポジのサイトのチャットにたどりついた。毎日同じ時間帯に入るようにして、チャットをした。

結果を1週間後に聞きに行った。精神的にはあっけらかんと。やっぱしというかんじ。受ける前に情報を仕入れていたこともあり、特に頭真っ白とかもなく、淡々と話してはんなりみたいなかんじ。対応してた人たちが焦ってたかんじだったのと、こっちの個室にって言われた時点でやっぱしな一っつ。自分のイメージとしては部屋に入って封筒を開けてはじめて結果がわかると思ってた。結果は自分が一番に知ると思ってたから、結果を自分の前に知られてるんやという印象。採血の看護師が対応よかった。印象がよかった。それが結果を聞きに行くことにつながった。

結果をもらった後、その日に陽性の友達に電話した。(前出の友達) これからどうしようかという話をした。この人は家族を知ってるから、家族の話をするし。

もともと家を出たかった。ポジとわかったことを理由にして家を出れるというだけで、これで楽になれると思った。

性格もある程度わかっている。たぶん手帳取ってなったら家を出てって言われそうとか、一人暮らししたら・・・とか、を話した。自分の中ではある程度決めていた。とりあえず、家出ましょって思ってた決めてすぐに行動に移した。

その日のうちに、兄にまずポジであることを話したら、好きなようにし、と。おかんがどう言っていたけど、きつと理解するとさくさくよ、と。この言葉が後押しになった。母も兄もゲイであることは知っていた。サイトから「今はすぐ死ぬ病気じゃなく、治療もあるし生きます」というところを抜粋し、それを見せながら母と他の兄弟に話した。今後手帳を取るとかの話になったら、家出たほうがいいし、と話をした。友達のとこに行くと説明した。そうしてくれるなら、そのほうがありがたいと母は言った。

友人宅に落ち着いてすぐに、すでに通院してるその子の通院日に一緒に病院に行った。

サポートがあったので、悩んだりとかは全然なかった。落ち込んだりもしてない。病気に関しては、自業自得じゃないと思ってる。相手も知らんとうつしてる場合もあるし。自分の中でその頃セ

# 『塗りつぶされてしまう気持ち』

さいとうさん 30代 男性

当時はつきあってた彼女がいて、結婚が見え隠れする関係になってきて、真摯につきあいたいと思いついた。検査を促す広報があり、大丈夫だろうとなげない気持ちで検査に行った。そして判明した。保健所で受検した名前を言ったら保健所内の人達の空気が変わって、別室にとなった時に覚悟をした感じ。ある程度の心づもりはあって検査を受けるわけですから、そんなにかしまられても・・・。僕のほうがたんたんとしていた。普通にセックスしていればうつるもんなんだろうなという意識はあったから、そういう意味ではそんなにショックなことはなかった。

保健所の方から、よければ病院を紹介しますよと言われたが、具体的に今からどうなるかの説明はなかった。今思えば、自発的に検査に行く人にとっては、医者のとこ行って、数値の様子で薬の開始になるみたいなのフローチャートのようなのが簡単にあればまた違ってたかも。病院はその日の午後に行った。なってるんやから、行かなあかんもんやったら、はよ行っとけと。連絡入れといてもらって、すぐ行った。行ってから、ちょっと近いときすぎたかなとか。もし近所の人に、どないしたんって言われたらって。時間をあけてしまうと尻ごみしてしまう部分とかあると思うから、勢いで行ったのはよかったかな。病院では、先生か

かかるんでしょね。普通にセックスすることですうつたりうつしてしまふ、それが理解しにくいんですよ。知らずにしてしまふというのがすごくなんかね、キーワードっぽい感じしますね。それが出てくると、後付けみたいに惚れた腫れた好き嫌いだったっていうのも塗りつぶされてしまったりするから。

保健所の方も、あのどよめきや空気の変わり方は、あの人達自身も絵空事というか他人事なんです。身近にあるものではなくて、一般の人と同じ意識の人が働いてる感じ。結果渡す際には個室で渡すようにすればシステマチックになって、ささいな空気の变化が本人に見えずに済む。だってあの空気の変わりよう、中にいた人達が、来たでって構えるぞわめき感が、やっぱ僕今思いましたら傷ついたり。僕自身はどこかそれで遠慮がちになったり。検査させたいくせに、したい人間に対してはそんなに優しくないんだなって。ごくごく自然に人を好きになって、その人とまじめに向き合いたいなって思った結果、検査に向かった。そういう気持ちままで、陽性だったという結果によって塗りつぶされてしまうという寂しさや空しさは感じますね。こういう検査の方法や仕組みだ。

あくまでいろんな病気の人が行く病院でしょ。HIVと察されるという可能性はないのかなと思う。

らこれからこうなっていくと説明を受けた。覚えているのは、いくらかかっていくんですかって聞いた。当面かかる費用について回答してくれた。

惚れてた人に対して、どう申し開きをするかっていう部分。どこかセックスなんだらうけど、それによる感染者の人らってみんなそうやと思うんですけど、自業自得ってことがついてまわって、誰もなりたくてセックスしてるわけやないんやけど、日本人で性に対して秘め事というか。あまり日常生活に出てこない部分を相手に伝えるということはおそらくナーバスになりますね。そっちの心配でだいたい暇かかりました。カウンセラーの方とそんな話ばかりですよ。先生からカウンセラー制度の案内があって、わかっただけの時期からお会いしている。人に話すのとはばかっちゃうんですけど、話ながら自分で答えをというか、落ち着いていくためにも大事なんだなって思います。ビジネスライクな制度で、垣根の違う人間で病院でしかお会いしないんですけど、人には言えない話や世間話も含めてあれこれできるというのはありがたいです。結果的には別れてしまったんですけど。セックスが絡む性病は他にもあるけど、第一に治せないってことで特別な何かがあるんやろうと思う。死ぬような病気でなくなってきたりするのは言いつつもどこかに不治の部分が何かひっ

なってるもん同士ですら、待合で居合わせてる時、あの人もそうなんやろかって働いてしまふくらいナーバスな問題、そういう病気でもあるってことなんやと思う。でも、どの病気も同じやねんとビジネスライクにしてくれてるほうがかえって優しいのかもって思うこともあるんです。周りの環境とかそういうのがわかってきたのが、ここ半年。時間っていうのは残酷なようでもあり、建設的なんですね、少しずつ自分の見えてることが広がって行く。そういうことを言えるだけいい環境なのかもしれないなとも思ってます。

入って必ず死ぬということがあるけど、若いうちは見えてないでしょ。それがふと見えるきっかけになった。それが見えるのは人によってまちまちやと。僕の場合は、この時だった。それだけのことかなと。

この病気が理由で別れるということがなければもつとみんないいんだらうな。それがセックスしてうつるもんやったら、キスしたら虫歯うつるやろうし、一緒に住めば水虫うつるやろうし、どこで線引きするかってことだと思ふんですけど。自分の立場だけで見るとじゃなく、少し広く見れるようになった。もつと広がって行くでしょうし。そういう意味では、病気なんて関係ないんだなって、その人の在り方かなって。



前月にやばいセックスしてるなというのがあって、そこからネットでHIVを調べて、その前もやばいんちゃうかと思った。今回出なくても再度できるようにと思って検査キットを2個買った。届いた翌日にやったら、5秒くらいで結果が出た。うわって。感染してると思ってなかったし、体調も悪くなかったんで、びっくりして何していいかわからなくて。保健所とかに行かなあかんのやろなというののはわかってたんですけど、インターネットでとりあえずHIVの症状などを探して出して、けっこう落ち込んだ。その時に陽性者のサイトを見つけた。いろんな人が書いてて、メールが出来るようになっていたので、メールを何人かに出したんですけど。今日検査をしてこういう結果が出ましたって。2人が丁寧な返事をくれて、ホンマに不安だった時に、まさに神様みたいな感じでホントにありがたかった。とりあえず保健所行くってことになった。

数日後に保健所に電話をしたら、いっぱいって言われた。予約制だった。電話かけるときにだいたい迷ったんです、自宅で検査したら陽性と出たと言いか言わないか。でも電話予約をする段階で言った。そしたら保健所の人に、うちに来てもらっても結果は一緒だから病院行って下さいって言われた。電話するのにも2日かかったんですよ。だ

この間なんか不安なことがあればいつでも電話して下さいって。自分でいろいろ調べて電話をしたら、丁寧に対応してくれた。自分はHIVっていうのを他人に言ったのは、そのカウンセラーが初めてだったんですよ。抵抗はもちろんあったんですけど、それを当たり前のように、気を遣うわけでもないし、それはすごい楽でしたよ。最終的な結果は所長さんから説明されて、初めて会ったのに、あなたはすごい調べて来られてるらしいです。とてもいいことやって言ってくれた。それを継続しながら、決して死ぬ病気ではないからちゃんとした治療をして、ばつとみる限りではそんなにひどい状況にはなつてへんと思う、だから早めに病院行って下さいって。ただ抵抗があったのは、本名、住所全部書かなあきませんやん、保健所で。抵抗してたんですけど、じゃないと紹介状が書けへん、紹介状なしで病院に行つてもらう事になりますけどいいですかって言われたんです。

病院では、カウンセラーさんも診察も一緒に入ってくれて、その後は別室で診察後にどうしたらいいかなどすべて教えてくれた。それから毎回来てくれる。病院に一人で行くことになったら、そんなにすぐには行けないと思う。地元だから余計に。曜日も仕事の都合とかを考えて決めた。そんな感じでカウンセラーさんは命綱みたいな感じ。今は当たり前前っていったら失礼ですけど、生活の

から、えっと思つて、どこの病院に行くんですかって聞いたら、やり方が違うんでやっぱり検査をここでしますって。混んでたみたいで、予約は数週間後になった。電話を切るときに、キャンセルする時は必ず連絡下さいって何回も言われた。それがけっこう嫌やったんですよ。保健所でこんな対応なんか。

保健所では、受付の人はすごいいい感じの人やっ。ちゃっちゃと事務的にこなしてくれはって。検査する前にカウンセラーさんと別室で40分くらいしゃべった。検査で分かると全部話した。検査結果を知るよりも、とりあえず前に進みたかったんで、それを説明したんです。そしたら、この県の拠点病院とか、CD4がこうやったら治療になるとか、説明してくれた。それから検査をしてしばらく待ったら、やっぱり陽性でしたって。最初の40分の中で、ある程度2人で病院行く日とかも話してたんです。その時点では腹をくくってたし、もう3週間たった頃だったんで。今まで大きな病院なんか行ったことなかったんで、カウンセラーさんが一緒に行つてくれることになった。それはすごく心強くて、ぜひってお願いした。2週間後、ちゃんとした結果を伝えるって言われてたんで、結果後にその日を決めた。その時にカウンセラーさんが、県の電話相談窓口を教えてください、

一部みたいなもの。あの人がいってくれなかったら。やっぱりずつと落ち込んで、しばらく誰とも会いたくない時期があった。出るっていうのが嫌だった。土日も出てないって言ったら、カウンセラーさんが、そろそろ気分転換に出て行ったらってずつと押しつけてくれた。その時にSNSに入つて、いろんな人に会つて、初めてわかった時にメールをくれた人にもそこで会えてうれしかった。そこで会った友達ともかなり仲よくしてる。

保健所で検査できるって知つた。自己検査したのは、わかつた時のショックが軽いと思つたんやと思う。他人から陽性って言われるよりも。どっちも一緒やったんですけどね、結局。でも早くわかる。でもそれはいい悪いありますね。何がいいかはわからんけど。わかつた時の相手に対しての防御というか。感染を知つてしまうと、やっぱりセックスできないんですよ。僕それ以来できないんですよ。怖くて。ほんまに、あの気持ちをもう他の人には味あわせたくない。もういいやん、僕だけでいいくらい衝撃やったんで。自分の部屋行って、一人でいると気が狂いそうになるんで居間に行つて、でもおふくろの顔みると申し訳ないって、ほんでまた部屋行って。もうどこにいたらいいんや。でもおふくろの顔みると、よかつた部

(次頁へ)



分も確かにあるんですよ。人の優しき、ほんまに人は一人では生きていけないんだなって、これわかったことなんですよ。あとHIVとわかったことも、ある意味よかったです。わからんままだったら、今でも知らんまま遊んでたと思うんで、誰かにうつしてた可能性もあるってこと。だからある意味よかったです。人に対して優しくなつた。おふくろとかに対しても。だから、全部が全部悪いことばかりではないと思いますよ。これからは自業自得なんですよ。だからそれは覚悟はしてますし、嫌やっつたらそれまでですしね。

知ってからは、この距離でしゃべったらうつるん

じゃないか、自分の口つけた箸を鍋に入れて、他の人が食べて大丈夫か、タオルも自分が使ったのを洗って大丈夫かとか。わかってるんだけど、もしかしたら僕のHIVがうつるかもしれない。うつしてしまったらどうしよ、そこだけなんです。この病気が大変な病気だから。治らないから。お医者さんは糖尿の患者と思っただけです。だから、そのリスクを負わせたくないんです。誰にも負って欲しくない。人間には寿命がありまじし、死んでいくのはしゃーないんですけど、HIVになったからこの薬が使えないから寿命が縮まるとかね。HIV自体は寿命全うしたとしても、いろんな制約が出て来ちゃう。僕は覚悟してますけど、それは僕だけでいい。

でもまだ一年ですからね、これから薬も飲んでいかなあかんやろうし、どんな生活になるかなるかもわからんし、とりあえず今はこのまま行こうなっているのが僕の考え。

## 『With Her Help (要約)』

Davidさん 30代 男性

性感染症を診てもらうため医療機関に行った。大変親切で治療もしてくれたが、HIV検査などの案内をされなかったことを疑問に感じた。そこで、友人に聞いて保健所を知った。建物は見つけたが、英語のサインなどは無く、何処に行くといいかわらず不安になった。辞書を引きながら10人くらいに聞き、検査の部屋にやっとたどり着いた。英語の資料はあったが、説明は得られなかった。セーフセックスを心がけていたが、100%ではなかった。ある程度のリスクはあると思っていた。1週間後に結果を聞いた。その場に英語ができるカウンセラーがいてくれたおかげで、それからほとんど楽に進んだ。仕事が変わり、切れていた健康保険の取得から、専門病院や医師の選抜まですべてサポートしてもらえた。その人がいなかったら、次の何をどうしてよいかわからず、大変なことになっていたと思う。病院にもたどりついていなかったかもしれないし、国へ帰らざるを得なかったかもしれない。病院のスタッフは、忍耐強く接してくれる。医師は知識豊富で、しっかり時間をとってくれる。ちゃんとケアしてもらえているし、必要な時に頼れる人がいることに感謝している。陽性とわかったことは、もちろん悲しく、悪い知らせだったが、他の人ほどではなかったかも。感染する可能性をいつも感じていたし、情報も得ていて、治療が可能で死ぬ病気ではないと知って

いた。自分の国では、ゲイ文化は隠れたものではないし、20〜25年HIVとともに生きていく人も日常的に接する。薬を飲み続け、副作用に悩まされることは良くはないが、それでも彼らは日常を楽しんでいた。だから、自分もあまり恐れていなかった。ある意味、これまでいつも気にしていた生活をしてきたため、感染がわかったことで逆にその心配から開放された感もある。健康面ではそんなに心配していない。心配なのは、パートナーを探すときや、長期的な関係へ与える困難さや複雑さについて。病気を伝える必要があると思っているが、この国では伝えると去っていくだろうし、最初から伝えないで後で言う問題になる。これまでの性的相手に伝えて検査に行ってもらいたい。大阪のゲイコミュニティは小さいため、それをすると自分のゲイライフは終わると思いたい。誰にもHIVのことは伝えていない。気持ちを誰かに話したいときもあるが、病気を伝えて問題になるよりも、自分一人で問題を抱える方がまだいい。HIVは一般的にとっても大変で死の宣告だと思われる。みんな、検査をすること、話をすること、陽性であると伝えることを怖がる。怖くて悪いものだから、コンドームを使いなさいという教育がされているのも影響しているかも。事実以上に怖いものとされている気がする、そんなに怖いものではないのに。



First I went to a clinic, because I went traveling and I came back with a STD. Clinic was very professional, and well run, people were very kind, and understanding regarding the disease I had and giving me a right medicine for that. But it was kind of strange because they never mentioned anything about HIV. They never suggested that I should be tested. They didn't talk to me at all about my over all sexual activity or what I might be at risk of having, or different things that I should be tested for. All they did was ask about my symptoms, and when I explained my symptoms, they thought it was gonorrhea and tested for gonorrhea, and they treated it. So, it was very strange for me because they only treated and spoke about one symptom not the over all picture. The clinic was very busy, but I think they tried very hard to make me comfortable.

I am not sure why I didn't press them about testing for HIV and other things. I think I was expecting to be asked and told to test for other things. I don't know if I thought maybe I didn't need to worry about because the doctor didn't say anything about it, and if it was a concern he would have said something, or if I thought, well maybe he was testing for gonorrhea and maybe he might from that be able to have some indication that I don't need to worry about HIV, or probably I was a little bit nervous about it, too. The clinic, while they were friendly, they were busy, and you are not spending a lot of time with the doctor.

insistent about safe sex stuff.

And they told me that I had it. It was wonderful that A san was there, that changed the whole experience for me. Without having her there I think it would have been totally different. She was immediately being able to give me advice to help me regarding medical care, insurance, resources that are available to me, in English. Because of that everything since then has been very easy. I can't imagine what I would have done without having her there. At the time, I had just changed jobs, so I didn't have any medical insurance. She helped me get set up for the Japanese national insurance, which I don't know how anybody could do that without a Japanese helper who has a lot of time to help them several times, because it's a long process of paper work. It's all in Japanese, none of the workers there speak English. If without A san, it would have really been hard. She helped direct me to my choice of hospitals and doctors who specialize in HIV, she was able to tell me about the doctors, great information, extremely helpful in my choice of hospitals.

So I ended up going to B hospital. They are very helpful and nice. Not a lot of people speak English there, but a few speak a little, and they certainly try to speak and try to help me, and they are very patient. I chose Dr. C because he is younger, more available, his English is very good, and I think I chose very well with him or I got lucky. He is easy to talk to, very knowledgeable, he spends a lot of time with me, and

So, maybe I felt a little pressure by the time, but then I realized, thinking about it more, I should be tested for especially HIV, the serious one.

I asked a gay friend, he had some information on hand about free testing. So I went to a Ward office. Once I got there, it was not very easy to figure out where to go for a foreigner not speaking Japanese. The first few steps, I thought, oh no, I am totally alone, there's no English, this is really going to be a big trouble. None of the signs were in English, so I had to ask people every step along the way, maybe 10 people. I was trying to ask them in Japanese, trying to use my dictionary to find some words about it without having to tell them exactly what it was. So it was very difficult finding the room. And finally I found it. A little bit of the paper work was in English so that helped, but no explanation was available in English. And I took the test, and I came back a week later. I thought that there was a decent possibility that I might be positive because it had been a while since I had been tested and I had done some risky things in a mean time. Considering, while I had been trying to be safe, I hadn't been 100% safe, I thought there was some risk I might have.

I've never seen any country where the guys are so unconcerned with safe sex as Japan. So, I think things in Japan are quite risky and that being risky more often than most country where people are more

he is not in hurry when I go in there. So I got tests for the CD4 account and viral load, and they are still ok and not needing medicine yet, so that's good. The hospital is kind of difficult to use in terms of being big, having a lot of paper work, having to go to lot of different places in the hospital, to pay, to get your next appointment, to get your medicine, to get your test...so it can be a bit confusing but people there really try hard to help me and that's good because I need the help, there's no way I could figure it out on my own.

I feel very fortunate with how my situation ended up. I think I am very well taken care of and I have people I can go to for help and questions who really go above and beyond to do everything they can to help me, but I can see how if somebody else was no so lucky, it would be very very difficult system to work in. So, now I go to Dr. C every 2 or 3 months. I am little bit worried about potential costs of my treatment as it moves forward, but so far it's been ok. I have been able to afford it. I sometimes wonder about how Japanese treatment and knowledge of HIV compared to my home, and if I might be better off being in home country, and I guess I don't really know. From my experience here, I feel like I am getting a very high level of care.

Finding out that I had HIV is obviously very depressing and sad, and very very bad news to



receive, but for some reason, I don't think I took it as hard as most people probably do, I think I've always thought that there was a risk that I was going to get HIV in my life. I almost always felt like eventually I was going to get it. Even though I was most of the time trying to be safe, I've had a lot of boy friends, and my boyfriends had lot of boyfriends, and I'm not always safe, usually, but not always, so I think I always thought there was a good chance that I would get it at some point. I also read a lot about HIV in recent years it doesn't sound so serious to me. Now they have drugs to treat it, so I never thought, oh I'm going to die, I always thought of it as a treatable disease. It's going to be difficult, because the drugs are expensive, the drugs have side effects, so that's not something positive, that's something bad, but I never had any sense of that I'm going to die. I think in my country, gay culture is very out, and so you hear about it and you are exposed to a lot of people who have been HIV positive for 20-25 years. And you see them and they all look fine and they are happy, they are doing their normal life. It's certainly not a good thing to have to be on medication and dealing with side effects...but for the most part, people seem fine. So I guess I was pretty knowledgeable about that, and I wasn't that afraid of it. Really in a way I almost felt a little bit relieved to know because it's always something that you are kind of worrying about it and trying to do safe sex and concerned with it and thinking I need to be tested, it's something to worry

didn't tell them about it to start with, they will be upset that you didn't tell them about it in the beginning. So, especially in Japan where people don't know as much about HIV, I think they are more likely to be really afraid of it and afraid of you, and want to say bye-bye and never see you again. I think in my country where people know more about and it's discussed a lot, especially in gay community, I think you are more likely to find people that would say that's OK, let's just make sure we have safe sex, or they are positive too, or whatever, but I think here the chances are almost 100% the person is going to be really freaked out. So that's a big concern. Doctor told me, he didn't think I got this recently. He thinks it's been a while. So, I could have infected people here without knowing. I think about trying to talk to these different guys I've slept with where it wasn't safe and telling them about it, but I can't imagine any way that would work out well. I know it's probably the responsible, appropriate, right thing to do to let them know so they can be tested, but I know they are going to freak out and they are going to probably tell everybody, and you know the gay community in Osaka is small. So I think if I were to contact people and tell them about this, my gay social life in Osaka is over. It's very scary.

Without the help with A san, I probably would have known that I need to go to a hospital and started to try to figure out where I go, but probably would have

about, so in a way it feels like Ok I know. Also for me I've never expected that I'm going to be somebody that is going to live a long time because many of my family members died at fairly young ages. I'm not that worried about it health wise.

The part of it that worries me, and stresses me out, bothers me, and makes me depressed sometimes is difficulty and complication it adds to my love life in getting boyfriends, my ability to get a long-term relationship. That is a big concern to me. You need to be up front with anybody who is a sexual partner of yours, and tell them you are HIV positive or you should. A lot of people don't take that news well and they don't want to have anything to do with you once they find that out. Or you have to make sure that you are practicing totally safe sex with them if you are not to tell them. And then you feel bad, because you feel like you should be telling them. Then it's particularly hard in Japan where people are very careless about safe sex and then really insisting on the safe sex causes problems that people don't want to have safe sex, people don't understand why you are so concerned with it. So certainly it's difficult and it's a complication when you are just hooking up with people. But then to actually have a serious boyfriend that's a whole another level of complication, because off course with someone you are serious with you have to tell them about it, and then maybe they are going to leave you, if they are somebody that you

taken me a long time to figure it out, especially since I wouldn't want to be telling people about my HIV status very much. If I tried and tried and couldn't find the right place or had bad experience with some part of it, maybe I wouldn't have made it there. Or maybe I would have felt like I need to go home. Having A san and doctor, those people can give me support, but I haven't told anyone in my life at all. No one. It's hard sometimes, sometimes I'd like to talk to someone about how I'm feeling, but I think it would cause more problems to have people know than problems that causes of just handling it by myself.

People think HIV is so serious and it's a death sentence. There's so much fear about it that makes people afraid to test, to talk about it, and to disclose their HIV status. I think it's maybe the education that is making it worse because so much of the education tries to portray it as this is so scary and so bad you have to be safe and use condoms. I think if they were just more realistic about it and said it's a health problem and it's treatable. If people realized it's not that big of a deal as it used to be, maybe people would get tested more because they would think oh I just should know so if I need the medicine I can make sure that I am taking the medicine. Because people are not so scared about other STDs because they think they're treatable. Lot of the stuff just seems like, they try to make it a lot more scary than it is. And it is not that scary, you know.



月1回ペースで風邪の症状が出てた。最終的にそれが3日間くらい続いて、その間、過去に梅毒に なった時とよく似た症状が出た。おかしいなと思 いながら今の病院に行った。最初は内科に行った ので、ちょっとわからなかったみたい。その日は 過去のことを言わずに帰った。そういう行為もし てるんで、梅毒か、もつといえはひよっとしたら と思ってた。でもそれははずっとありました。やっ ぱり切っても切れないもんなので。

仕事も行ってたんですけど、立ってるのがしんど くて、もう1回病院に行って、内科で過去の梅毒 と今回の症状が良く似てるということを伝え、そ っちのほうの数値はどうでしょうかと話をし た。担当の科で、血液採ってもらったら、こうで であろうという結果が出たんです。採血したその日 にたぶんそうであろう、もう少し詳しく検査して 数値がどのくらいになってるかというのはいくら 少し日にちがかかると言われた。その日に入院して くださいと言われた。

今やから言えるのかもしれないけど、そんな別に 驚きませんでした。あーなっちゃってんなーみた いなかんじ。パートナーは結構注意して性行為し てる子なんで、しきりになってても知らんよって言 っていました。僕的には性行為をしてたらなっても

看護師さんもお医者さんも言ったのは、世間の あれがあるんで、仕事もすぐやめたりする人もい るけど、別に公表しないかんことじゃないって。 僕はその点、家族もみんな早い時期から知って るんで、僕の説明不足かもしれませんけど、イコ ール早く死ぬという考えを持ってみたいだけ。 今はそのいうこともないって理解してるみたい。 一般に売られてる本とか読んでたり、僕の知らん 事まで知ってたりする。仕事場には言っていないで すけどね。仕事場の人はまだ理解がね。

お話を最初聞いた時に、こういうことも注意しな いかんねやっていう、内容的なことでは不安はあつ たのはあったけど、これからどうしたらいいんや ろっていうすごいかんじではなかった。知らなかつ たことも多いですけど、相方がけっこう詳しい。 そのへんでも、僕は付き合的にも楽は楽ですよ ね。相手も知ってるけど、何も変りなく、周りの 友達とかがどうい風に見えるかというところで、気 にしはる人も多いんじゃないかな。

今ちょっと心配することは、薬を飲み始めたたらど うなるかということ。それは入院の時に説明もあ ったんですけど、薬飲むときに入院する人もい るんですけど。そんな大変なですかって言ったら、 今回よりも苦しむ人もいって言われた。そんな ン言わんといて下さい、僕はどうでしょうかねっ

おかしくないかと思ってた。ショックよりも、この しんどさを先にどうにかしてほしいという感じ。 入院ってなったときに、なんか気持ちが悪くさーと 引いてね、なんか一時的に熱も下がった。しんど さが引いて、その日は入院の用意のために帰って、 次の日から入院した。しばらくはしんどかったか な。入院して楽だった。1か月半入院してた。入 院中に病気の説明があった。カウンセラーや看護 師さん、いろんな方が話をしてくれて。さらに退 院後に看護師さんに話聞いた。いっぱいいろんな ことがあるじゃないですか。でもこれからのこと も含まれるので、まだ経験してないことを聞いちゃ うと考えすぎるといけないんじゃないかと思っ て、あまり深くは聞かなかった。資料の中で、今 注意せなあかんのだけ線引いて、なんかあったら 病院と思っただらいいと言ってくれたんで。

スタッフの皆さん明るいですよ。入院した時に すぐそれを感じました。だから、知ってる部分で の話だと思っんですけど、やっぱり不安にはなら なかったです。逆に、不安にさせない言い方をし てはる部分もあるのかもしれないけど。先生は、 薬飲むのは3年後かも5年後かもしれないけど、 その頃になったら新しい薬がどんどん出るかもしれ ないんで、普通に健康の人よりも寿命が長くな るかも知れん。薬は飲み続けなあかんけどって。

て聞いたら、たぶんくるわ、前の時にあれだけし んどさが出るからって。早いとこ来とき。来た らええやん、またって。家にいといてまたしんど くなったらあれやし。また飲み始めたらどうなる かわからないし。でもいつ飲むかもわからへんの に、飲んでからのことを考えてもあれなんで、今 は、始めた時、何もない人もいって。そうなり たいなあって。その時期については見てくれては るんで、そのへんは安心なんで。後は、他にいら ん病気をもらわんように、注意しなあかんかなっ て。だからって遊びませんとは僕は言っていない ですよ。先生もそれは言いませんよって。

ずっとつきあっていかなあかん病気なんで。そう いうことをせーへんかったらって、それは絶対無 理なことなんでね。なった人も、そういうとこに 出入りしてるじゃないですか。そういう人のこと を批判する人もいる。じゃあ、自分がなったら出 入りせーへんのかっていったら、しなないって言う と僕は思うんですよ。なってへんからってそうい うことを言う人もいるから。その人の気持ちにな って話しはらへん人もいるしね。



微熱が続いて、普通の風邪と思ってたけど1か月たっても治らないし、胸が息苦しくなってきた、もしかしたら肺炎になってるかもと思って町医者に行った。肺炎でちよつと進んでいるから肺炎専門の総合病院に行つた方が良いと言われた。総合病院で肺炎を調べる検査の前に検査をすることになり、それで感染がわかった。その時は、HIVを含む何種類かやりますという説明があり自分も了解した。自分で疑いがあったら、前もって検査に行つてたと思うんですけど、全く思っていないで、感染しているというより発症している状態の本当に驚いた。総合病院で症状を見て発症していると言われた。でも専門医ではないので、拠点病院に行つた方がよいというので、紹介状とレントゲンを持って翌日に行つた。

総合病院では、詳しい説明は全くなく、こういう専門病院があるから紹介状書くから早く行きなさいと。たぶんそのお医者さんも知識がなかったと思うんです。お医者さんは告知するときに緊張されてたのがよくわかった。たぶんお医者さん自身が驚かれたと思う。客観的に、この先生は初めてなんだろうなって思った。そこは僕も冷静にお医者さんの顔は見てましたけどね。先生の表情ははっきりと覚えている。青天の霹靂というか、例えは2億円の宝くじが当たつたというのの逆の衝撃。

感じ。お医者さんの対応が全く違う。だから、7、8割は投げられたかなと思つた。

家でいろいろ考えるわけですよ。こっちは死ぬ覚悟で、来年の桜は見えるのかなって感じなのに、帰りなさいと言われたんで。どういう意味やったらんやろと考えていましたね。その翌日くらいから体重が急に減り始めたんですよ。自分が衰弱しているのがわかる。足の裏の脂肪がなくなつて、骨が当たるのがわかるくらい。それで驚いてすごく進んでると思つて、3日後にまた病院に行つた。1週間後まで待てませんと言つた。顔も変わつちゃうんですよ。自分の死相というか、こういう顔になると死ぬんやなと鏡見てましたけど。

1ヶ月後くらいに入院した時に、今、日本で亡くなる人数を聞いたんですよ。その説明をしてくれて、もうひとつ言われたんは、今発症したからあなたも助かった。5年前やつたら危なかったかも。10年前やつたら亡くなつてたやろうと。それまで徐々に助かりそうとわかつてきたけど、はつきりわかつたのはその時。わかつてかなり安心した。いろいろ考えましたけど。もし死んだ時、エイズで死んだとわかれば大変でしょう。親、兄弟、仕事とか、いろんなところに関わるかなと。病院で死んでしまつたらわかるから、その前にどうにかしなければとか。死ぬことばっかり考えてたんかな

覚えているのは、病院出た後に空見上げましたね。青空でしたけどね。空は澄んでたけど自分の心は落ち込んでるという。なんでかな、と。全然疑っていません。あの時は全然知識ないんで、混乱してて、もちろんショックで頭真っ白なんですけど、病院から家に帰つた道順をはつきり覚えてるんです。冷静に。その時思ったことは、明日病院に行かないといけない。たぶん帰れない。亡くなるんだらう。かなりの日数入院しなきゃいけない。お金がいるだらう。だから、銀行でお金おろさないといけない。銀行寄りしましたよ。その晩は寝れなかった。いろいろ考えました。どうなるのか、親はどうなるのか、自分のこれまでの人生とかね。

次の日の初診は長時間診て下さつた。僕はもちろん死ぬと思つてるから、即入院で、もう帰れないと思つてたんですけど、治療方針を示されて、こういう薬をどういうふうに飲んで下さいという指示を言われて、じゃあ、帰つて来週来て下さいと。これびっくりしたんですけど。わかんなかつたんです。そこでは、助かるとは。どちらかというと、助かるというよりも、さじを投げられたと思つた。総合病院の先生はごつつ緊張されて治療方針もわかんない。今の病院に行つたら治療方針をたんと示されて、また来週来てねという

あ。病院では嫌だなあ、エイズで死ぬのは嫌だなあ、それまでに他の死に方ないかなあ。何か他の人に迷惑かからない方法、血液飛び散らないよ。1週間くらいは、告知されてからそんなことばかり。

生きることだけじゃなくて、同じくらい死ぬこともめっちゃ考えますよ。どういった死に方をするか。どうやって死んでいってらんかな、他の人は。ある意味では逆にこの病気になるって生きてしまつたから考えてしまふ。こんなこと言うと怒られるかもしれないけど、もしかして発症した時死んでたほうが、こんなこと考えなくてもよかつたかもしれない。そのほうが楽やったかも。あと生きるほうが辛い、長い。いろんなこと背負つて生きないといけない。言えないしね、この病気は。隠さないといけないし、知られないように。考えることが増えたなというのがありますね。一番不安な人は、誰が知ってるかわかんないこと。役所でも誰が僕の書類を受け付けて、誰がやって下さつてるのかわかんないし。なんとか飢え死にしないで生きればいいかな。病院に来れるようにとか、最低限の経済力は必要なので、そのために生きないといけない。大きい夢があつてとかは今はないです。悲しいけど。仕事は以前とほとんど同じようにやっています。続くといひんですけど。続いて、ある日突然死ぬ、それが一番の願いです。



発熱があつて、熱が下がらないということで病院に行った。家にいても下がらないので「念のため入院をして様子を見ましょう」だったんだけど、入院しても原因がわからない。熱も下がらない。で、いろんな病気の検査をした。病院の内科の先生は、原因がわからない、おかしいとだいぶ悩まされて、発熱から2週間たったころ、最終的に内科の先生から「エイズの検査をしましょうか」ということになった。その時に両親がいたかは覚えていないが、両親に隠し事をしない家なので念の為エイズの検査をするかしたかということも伝えた。

両親も一緒に検査結果を聞いた。エイズの事だけではなく今までの経過を説明するというものだった。エイズの検査結果もマイナスと告げられた。あ、やっぱりね、ほっとした、と思ったのもつかの間、熱も下がっていた数日後に「マイナスと告げたのです、実は偽陽性だったので、陽性の可能性もある、もう一度採血をして精密に検査をした」と言われた。え、マイナスっていったじゃん、と思った。また不安がよぎってきて、夢であつてくれと思つた。採血をした。正式にプラスだつたと聞いたのは、いつだつたかな……。たしか外来診察室で、やっぱりプラスでしたと言われたような気がする。そこでいろいろ数値を言われたけど頭

真っ白でよく覚えていない。反応があるということと言われたので、頭真っ白ですね。気にはなつてたけど、まさか自分がつたつもりだったので、無謀な行為はしていなかったつらかったです。コンドームもできるだけつけるようにしてたし、来てしまつたかという感じ。拠点病院への紹介状を書いてもらう間、待合室で待つたけど、数年後に死ぬんだろとかいろいろ考えた。ゲイであることを隠してるので、親にどう言おうというのも一番出てきた。なんで感染したかという説明がつかないから。

拠点病院へ行くまでの間いろいろ考えた。あまりこの病気について知らなかった、長く生きられないというイメージしかない、不安だつた。両親より先に死んでしまうのか、姉を残して死んでしまうのか；などずっと悩んでた。自分が最後でないといけないと思つているし、死ねないのにどうしようと思つた。それでも、病院に行かなきゃほかに方法はないと思つた。行く日まではつらかつた。病院に行くまで、家のパソコンであちらこちら検索して調べた。情報の中にはさらに不安になるものもあつたけど、ずっと検索してた。

すぐに行つて下さいということだったので、1、2週間後くらいに紹介状を持って拠点病院に行つ

た。行つたら、先生に最初に「とにかく定期的に病院に来てください。それだけは守ってください」と言われた。「来ないと命の保証はできないから」と。「来てくれればちゃんとしますから、様子をきちんと見ていけば大丈夫ですから」と言われた。「来ないというのは絶対やめてください、そうすると私たちには何にもできなくなりますから」と。「はい、ちゃんと来ます」と言つた。死なないうつて先生がおっしゃつたので、命に関する心配はその病院に行つてから消えた。カウンセラーさんにも話を聞いてもらった。

最初の病院も一生懸命してくだつたので、不信感を持つていたわけではないけど、今考えればなんでそんなことがおきたんやろつてのは思う。その時は頭がいっぱいで、どうしようこれからつてのが先だつた。なんでそうなつたのかは、今でもわからない。今の生活に影響しているということも感じない。

積極的に検査をしようと思つてたわけではないけど、HIVがわかつたのは自然な流れだつたと思う。原因が不明だつたので、最終的にHIV検査をすることになつたのは、あーそれもありかもしれないなと思つた。

告知を受けた病院のそばはしばらくは通りたくはなかつた。思い出したくない……。1年くらいそういう時期があつた。



体調がすぐれなくて、通常通っていた病院に診察にいったところ、検査をいくつかされた。1週間後に来なさいということで、再度行った。栄養バランスが偏っていると言われた。他は何ですかと聞いたら、専門の病院を紹介します、と。その時点ではなんか悪い病気でももらったかなと思っただ。大きい病院を紹介しますというだけで、病名とかは一切言わず、とにかく紹介しますからと。なんですか？と聞いても、そんなん言ってる場合じゃないから、紹介するところにすぐにも行きなさいと言われた。

先生が紹介状を書いているときに、たまたまカルテが開いていた。紹介状を書くために先生の前に開いてたんやと思う。そのカルテにアルファベット3文字「HIV」とのっているのが見えた。自分に来てしまったか、という感じだった。先生は何も言わなかった。

紹介された拠点病院に行くまでの2日間は、告知はされてないけど、自分では絶対そうだと思っていた。文字をみちゃっているから。不安でしょうがなかった。どうしよう、どうしよう。もうすぐ死ぬんだと不安だった。でもとにかくしんどいし、その病院で今後の対応を教えてもらえなかったし、先生も行きなさいと言ったから、行くしかないと思

一人でじっといるときは、不安になっていた。

居候して、食べたいものもすぐ食べれないし、食べさせてはくれてたけど、仕事もせんととは言われてプレッシャーは大きかった。どのくらいか記憶が飛んでるけど、けっこう長かったと思う。1年近くは経ってたかも。数ヶ月してから仕事が見つかった。

その時は、勝手に検査されたこと云々よりか、病気のことしか頭になかった。これからどうなるんやろ、どうしたらいいんやろ。あれ、勝手に調べられてよかったんかな？という疑問は後からわいてきた。数年後に勝手に調べたらあかんってことがわかった。当時は知識なかった。

今となってみれば許可なしに勝手に調べられたんはしゃくにさわるけど、発症する前、悪くなる前にわかった事は、ある意味救われる。自分の場合は、今は結果的にはよかったと思える。早くわかった分だけ、将来のことを考えられるから。不安やから検査に自分で行く気は全くなかったから。

通常は、そうじゃないかなと思っただけで自分の意思で検査に行くことも多いのかも。自分の場合は、体調が悪かったからいつもの病院に行っただけで、告知はされなかったけど、そうじゃないかなという感じ

思った。明日すぐにでも行きなさいという感じで伝えられたので、すぐに行った。

何科ということは言われていなかったもので、受付で紹介状を見せた。

検査して、結果がはつきりするまでは1週間。長い説明は受けなかったし、こっちも聞こうとはしてなかった。余裕はなかったし、先生が説明してたとしても、頭に入ってなかったかも。覚えてる言葉は、はつきり「間違いない」ということと、「これから長い付き合いになるね」。その他のことは、言われたか言われてないか覚えてない。

体調が悪かったのと、この病気がわかったことで仕事はやめた。拠点病院で結果がわかってすぐに、理由は言わずにやめた。病気によって、何か迷惑をかけたらいかんと思った。

その月に収入が止まって、その後2ヶ月はお金がまだあったから診察行けた。そして家賃が払えなくなっただけで、病院に行けなくなった。それからが大変だった。友達のところの流れ込んで行けた。それから働くまでは、お金なくて病院に行けないのがしんどかった。安定しないまま、病院行けなかったのはつらかった。どないなるんやろ、という不安は常につきまとった。住んでるところ無くして、生活が安定してなかったことも重なって、

で拠点病院に行つたわけ。いいように解釈すれば、覚悟して拠点病院に行けた。よそからしこまれて不安感が出てきて必要性を感じて行けた。

2日間はいちばんしんどかった。情報を得る手段はなかったし、体調が悪くてしんどかったし。



まず、肺炎で入院した。検査をいろいろされて、その先生にHIVの反応が出てると言われた。検査の同意はなかった。そんなはずはないと思っただけ、もう一度調べてもらったら、そうだとわかった。そして今の病院を紹介してもらった。

伝えられた時は目の前が真っ暗だった。死ぬことしか考えてなかった。わかった恥ずかしさ、この先のなさで目の前が真っ暗になって、何も考えられない状態。でも、死に方、どういうふうな感じで死のうか、死にたい死にたいとその気持ちばかりだった。結果は伝えられたが、詳しい病気の説明はなかった。

まだ可能性があるかなと思った。今となったら笑えるけど、今の病院に行く前にも、お祓いにも、占いにも行って、違うように違うようにって望んで祈って・・・結果、やっぱり陽性だった。違う意味、踏ん切りがついたかな。どのくらいの時間だったかは覚えてない。そのころ一日一日どうやって過ごしたか覚えてない。

今の病院で改めて検査をして確定した。その時はこと細かく説明してもらった。主治医には悪いけど、男性に言われるより、女性の看護婦さんにごく話を聞いてもらった。すごくはげまして

普通の友達とか知り合いに言うと、拒否されるとか、汚いものを扱われるように接せられるのが怖いのでちょっと言えない。たぶん、自分もこういう病気になってなかったとして、HIVの人がもしいたとしたら、そばに行くのも怖いかな。触れるだけでもうつるんじゃないかと思うんじゃないかな。

病気わかってから、だいぶ今では変わったけど、あんまり人に触れることはない。ある程度の距離はとる。食べる物でも同じ箸は使わない。感染しないことはわかっているけど。

今となってはありがたかったかなと思ってる。でも今後自分と同じような病気の人が出てくると思うんですけど、やっぱり先生の一言によって命を落とすってしまったりする人もいると思う。だから、先生の言葉はかなり重要度が高い。一言一言が。重すぎず、軽すぎず、話を進めていってもらった方が、今後の人のためにはなると思う。重く話されると、この病気が重たく、重たいんですけども、行き場がなくなってしまう。半分笑い飛ばしてくれるくらいの方がいい。

わかってから結婚した。相手の女性は知ってるんだけど、その代り性生活は全くない。先生は避妊をしていれば大丈夫とおっしゃるんだけど、自分

いたでいて、そこから気持ちだんだん変わっていった。だいぶすっきりはした。それから通院している。

ほんとなら、わからない状態で、死んでたくらい数値も低かったし、先生にも言われたけど、もう後がなかった。それが助けられたってことは、まだまだこの世で勉強しないとイケないってことかになって思いかえして、生きてる間はもうちょっといろんな人に対して、自分に対してもそうだけどもっともっと勉強しないとイケない。それができないのから、まだ、あの世には行かせてもらえないのかなと思った。

病気とわからずに生きていたころよりも、精神的にも強くなったかな。少々なにかあっても耐えられるくらいにはなった。

心許せる人が、女性なんですけど、一人だけいる。その人には話してる。その人の友達に同じ病気の人が実はいたって聞いている。お会いさせていたどうかとも思うけど、今さら会ってどうかなくて。まだ会ってない。もうその時は誰かにすがりつきたい、こういう病気の人を近場で見たことないし、その人の話を聞きたいなと思っただけど、今は思わない。

自身が無理。相手にはわかってもらってはいるけど、今となっては結婚しなかったらよかったかなと思う。自分が相手に対して悪いなっていう罪の意識もある。相手も相手で、そのときはよかったとしても先々はしんどくなるかもだし。信じれないわけじゃないけど、もし別れた時に、相手の親に自分の病気のことを話されたりする不安はある。

精神的にはちょっとは強くなったつもりなんだけど、家庭の中でもしんどい。わかってきてくれる反面、でもなってみないとわかんないでしょっていうところがどっかにある。

これからそういう人がでてきても、がんばって生きてほしいなと思います。



友人がインフルエンザになって、食べ物も届けたりしているうちに、自分にもうつってしまった。高熱が出始めたので、インフルエンザの薬をもらわないかんと思っていて、近くの病院にいった。インフルエンザの薬を飲んで治らず、薬を変えても高熱が2週間たってもひかなかった。そのうちにリンパがパンパンに腫れてきた。個人病院の先生もこれは風邪とかじゃないかと、「○○症」を疑って、町の一番大きな総合病院であるC病院に紹介された。(たまたま拠点病院だった)行ったらそこでもおそろしく「○○症」ということで、その治療をするため入院になった。治療開始して1ヶ月2週間たっても改善せず、その時点で1ヶ月は経過してた。2人の先生が「○○症」と言っただけ、自分もそれだと思っただけ、症状がよくならず悪くなって行く。自分でもHIVに関して心当たりがあったので、治療の合間合間に検査してくださいと言っていた。でも聞き入れてもらえず治療がそのまま続き、治らないのでまた別の病気を疑って薬が変わった。そうこうしているうちに2ヶ月たった。

自分はふらふらで、もう1回、HIVの検査をしてくださいと先生に頼んだ。それまでも研修医の先生が変わるたび、そして部長にも数回HIVの検査を頼んでいたんやけど、また自分の希望にも続いた。

なって、余計に行き場のない感じになって、どうしようもない中に自分の身を置くしかなかった。仲良くしてもらってた他の患者からもぶいっとされ、はみごみたくなかんじになってた。それでも自分に非があると思っただけ、そのときは。そんなんされてもしょうがないと思っただけ。聞こうと思っただけ4人部屋でされちゃうから聞きたいこともちゃんと聞けず、ということが2か月目以降も続いた。

判定保留から2週間後に陽性結果ということがわかったくらいの時点で、知らないうちにHARRT開始してた。説明はまったくなかった。他の薬もあつたし抗生物質だと思っただけ。そういうことも聞けない。4人部屋で言われちゃうし、お医者さんが怖くてしょうがなかったから。気づいたのが、請求が来たとき。3週間しめて病院にお金払いに行くやけど、その時にこれまでと桁が変わっててん。何でこんな高いんですか？払えませんか？看護師さんに言った。こんなに高いのは、HIVやん？エイズやん？そういう薬は1錠につき数百円するの、それを3ヶ月4錠飲んでるから、かけるいくらかける日数でこの金額になるって説明を受けた。え？じゃ、これからどうしたいの？て思っただけ、でもこれ払えないですけどどうしたらいいんですか？と言ったら、ソーシャルワーカーに相談することになった。ソーシャル

はつながらず、医者ということでは絶対という雰囲気です。それ以上は言えなかった。医者は上で患者は下という環境やね。言うとおりにやつとけばどうにかなるかなと思いがち、頭の片隅にはHIVの心配があった。そのうち、研修医が変わったので、その人に、もう耐えられへん、なんにもよくならないから、先生から主治医の先生にHIVの検査の話をしてもらえないかとお願いした。やっとHIVの検査をやることになった。

確認検査の結果は判定保留になった。ここでやっと先生らのチームとしても疑い始めた。でも...主治医でもありHIVも診ているという先生は、HIVっていうのはね、これは大変なことですよとHIVの疑いがあるということを4人部屋ではじめた。病院の患者社会の中で、あの子は...ということが知れ渡ってしまった。喫煙所でも鼻つまみ状態になってしまった。居場所はないけど、ここは拠点病院っていう説明を受けてるし、自分はこのことでないともう生きたらへんのやという人があったから、他の機関にアクセスするとか知らなかったし、この先生どうまくやっていかないと生きていけないと思っちゃって、HIV外来をたまたまやってたこの先生の言うことになんでもYESという環境ができてしまった。患者同士のコミュニティションも今までのようにとれなく

ワーカールの院内での立場的な事があるみたいで福祉的な事は相談にのれるけど、院内で困ってる事に関してはタッチできないと言われた。高額療養費の説明を受けた。HIVの治療をしてる人は、日々どうやってこの高額な医療費を負担してるのかと思っただけ、この制度を利用して、毎月6万円なりというお金をどうにか工面していかなくねんって思っただけ。でも少なからずそういう行為をしたんやからなって。そのまま退院して帰った。

退院してインターネットができる環境になった。手帳の制度がある事、拠点病院の事、ソーシャルワーカーの役割、HIV外来をやっている先生はどういう知識を持って患者に対応するものか研修されている事もわかった。そしてある方から、患者は病院も先生も選んでいいの、と言われた。そこで初めて、そうなんやと思っただけからネットで調べ始めた。制度を利用していくやけど、まず手帳を取る事をやればいいのかと思っただ。今までの経緯も知ってるから、しばらくは今の病院で手帳を作る作業をやってもらいましょと思っただ。予約して病院に行っただ。そしたら、主治医に、あくそんでしたね、手帳ってものがありますよ、と言われた。後でわかってんけど、自分をひきとめようとしたのは、先生の事情があったみたい。

(次頁へ)



あほやから、級の違ってもわからんままだ、しばらくここでお世話にならなあかんねんってとこに戻って行った。その手続きをするためにソーシャルワーカーに、こういう制度があるんですよって説明して、手帳申請の書類を取り寄せてもらい、先生に書いてもらおうってときに、もう治療はじめてるよね、数値も上がってるから、3級もとれないよ、という事になって主治医も混乱した状態。自分だって余計どうしたらいいんですか？ってなかつた。でもやっぱりどうにかしたいから、いくつかのとこに相談した。「病院をかえなさい」「あなたは何も悪くない」と言ってくれた。「あその時点で気力もなくなってる、もうしんどいわってなつたし、どうしたらいいのかわかんない。陽性者同士の横のつながりもできてきて、個人がやってる掲示板を通して知り合ったDさんにも、偶然同じような経験をした人だった事もあり、病院を変えるように言われた。

でも、主治医に病院変わるっていうのも言わないといけないんでしょって思った。Dさんは、スタップも充実してるし、先生もたくさんいて選べるE拠点病院をすすめてくれ、自分も一緒に行つた方がよければ、その気になつたらいつでも言つて、無理にはいわへんけど言つてくれた。ほんとに感謝してる。E拠点病院に

行きにくい理由が別にあつたんだけど、どうにかしなきゃいけないってことで、Dさんの後押しもあつて、C拠点病院に電話をした。主治医に、家族には病気のことを言つてない事、家族への配慮のために、地域にある病院よりも遠くの病院に通つたほうがいいと思つているため、今までお世話になっていぬいに伝えた。うちにストックされてるHIVの薬は不要在庫になるんですけどね、と言われて、買いとりますよと言つた。紹介状を書いてもらい、E拠点病院に行つた。陽性とわかつてから3ヶ月半くらい経つてた。

一番最初に紹介状を見せてもらつて話をしたのが看護師さん。「本人の強い希望があつたので入院中にHAAARTの治療を開始しました」と書いてあるのを見て、そこでうわーって泣いて、今までの話を聞いてもらつた。HIVを受け入れるってことの前に、医療機関やお医者さんや看護師さんを含め、信じられへんと言つた。そうやなつて聞いてもらった。そのあとにワーカーさんにも話を聞いてもらつて、先生にも考えてもらつて最終的に手帳はとれる方向でどうにかするから、自分でどうやって考えるのはやめとき、考えすぎて余計しんどくなるのはあかんからといろんなスタップがケアしてくれた。それで今の自分があるわけ。

E拠点病院に行つても、どうにかしたいという事だけを言つて、100全部は言わなかつた。C拠点病院で経験した事も全部は言わなかつた。医療者同士のつながりがあるんだらうから、あまり悪いことはいつたらいけないと思つてたし、信用はできなかつた。いろんなスタップがいて、必要なことは聞ける。そういう意味では信用してる。でも今でも100は言つてない。唯一100の気持ちで100言えたのはDさんだけだつた。さらけだして全部言つた。

他の人よりも病院、医療、医療者に対して不信感を持つてる。それは深い。ものすごく人を見る。でも、今とても感謝してるのは、その後2回した入院期間に出会つた担当になつた研修医。どういう道を通つてきたか、C病院での話も聞こうとしてくれて、患者としてだけでなく人としての付き合いをしてくれた。その部分でその先生に心を開くことができた。その先生は今でも大きくて、ひとつの自分のキーだつた。Dさんに出会つて、E拠点病院につながる事ができた。お医者さんは怖くて半分くらいしか話せなかつた。たまたま入院することがあつてその先生との出会いがあつて、人として患者をみてくれる先生もいるんやつて事がわかつた。それが大きかつた。



毎日しんどくなって、ごはんが喉を通らなくなってきた。ずっとがまんしてたんですよ。お医者さん嫌いやし。まさか自分がエイズだとは思わなくて、近所の胃腸科の病院に行つて、胃力メラ飲んで、やばいと言われたんですよ。すぐに大きい病院を紹介するから明日行つてと言われたんで、行つた。最初に会った先生に、死ぬよつて言われたんですよ、まず。入院しないと死ぬよつて。レントゲンの写真を見た瞬間にエイズやつて言われましたね。がーんと来ました。明日は無理ですから明後日にと言つたのは覚えてます。

先生もわかつてはるんで、血液検査をする前にエイズやつて言わはつたんです。でもいちお血液検査するけども、必ず陽性が出るからと言われた。すぐ採血して、まさしくそうやつた。2時間くらいたつて、病院から友達に電話して、そのときにはもうすぐ逝くんやつて落ち着いてましたね。

実は何回か検査やつて、大丈夫や思つてたんですけど。それから8年ほどたつて、いきなりエイズです。僕同性愛者なんで、いちお、漠然とはわかつてたんですよ。でも周りにはその当時もなく、まさか自分になるとは。いつかはなるかもしれないとは思つてたけど、いきなりエイズとはびっくりしました。死ぬなつて思つたんで、すぐに覚悟が決まりました。入院しないとイケないんで最初発症してた病気を治すことから開始した。きつい点滴で、すごく副作用が出て、めまいがして起きれない。ぼろぼろやつたんですけど、それからひゅーと戻つてきました。1か月くらいしてからHIVの薬を始めた。一番最初の薬が合わなくて、次のに変えたら、合つて、今もそれで続けている。今は3か月に1回通院してる。当面1か月に1回だったのが、1年後くらいからそうなった。もうそのときの感覚を忘れてるんですよね。忘れたらあかんですけどね。よっぽどやつたんですけど・・・友達が聞いてくれてたんですよ。五分五分やつて言つてたつて、今聞くと。

変わりましたね。すごい自分に投資してますよ。毎月血液検査してるけど、楽しいんですよね。人より健康ですよね。ある意味。なつたらあかんかつたけど、なつてもよかつたこともあるかなつて。すごく長生きできると言われまますね、先生に。

今が一番怖いすね。障害者認定されてるけども、働けへんようになったらどうするんやろかとかね。もし薬飲まれへんようになったらどうなるんやろとか。でもあまり深くは考えないようにしてるんですけどね。

仕事も普通の仕事と一緒にすから。あとは僕の今からの行動やと思います。人にうつ

家に帰つて、まず友達みんなに電話したんです。僕エイズやから、先逝くわつて言つて、そしたら集まつてくれて。僕一人ずつに遺書書いたんですよ。そして家を掃除しだした。もう帰つてこないと思つたんですよね。友達に鍵を渡して、病院に行つた。親にもすぐ電話しました。先逝くわつて。エイズやつて説明した。

主治医の先生が危ないとはっきり言つてくれた。でもひとつだけ方法がある、食べる事やと。食べれないんですよ、痛くて。でも、それから必死になりました。流動食みたいな飲むやつがあつて、それは毎日飲みました。ごはんも通るようになって、だんだん調子よくなつてきたんですよ。だから、自分が生きようとしたからかなつて。

なんでわしが死なないかんつて感じになつて。友達に、もう死ぬわつて言つてたら、なんでここに入院したかわかるか、病気を治すために入院したんやつて言われたんですね。それでばつと切り替わつたみたい。看護師さんも、一緒に勉強しようみたいな感じ。僕がけつこうあつたらかんとしゃべるから先生も聞いてくれるし。薬剤師さんも一から説明してくれて、カウンセラーさんにも会つて、一緒にがんばりましょう、と。もつと閉鎖的ななかなと思つてたけど、恵まれてるなつて。

すかうつさないか。これは一番大問題と思うんですよ。だから僕この何年もエツチしてないんです。できないんです。ちよつとトラウマになりましたね。汚い血が流れてると思つてしまふんですよ。先生からやつてるかつて言われるんですけどね。人生これで終わつちゃう人もいるじゃないですか。今んとこは僕は無理です。

紙一重ですよ、ああいうのつて。昔はよく死んでたじゃないですか、有名人とか。今は、成人病みたいなとこがあつて。でも成人病はうつらないじゃないですか。僕らのはうつるから、そこが一番問題やなつて思います。

すごい感謝してますね。人が変わったように。友達もものすごく助けてくれたんですよ。中には友達にも言えない子もおるやろし、僕は恵まれてるなつて思いました。

僕ね、これ性病や思つてるんですよ、このHIVつて。ある意味はすかしいじゃないですか。性病でもすごい恐ろしい性病みたいな感じ。でも、国が補助してくれるつて。自分が払つてる金額と、実際かかつてる金額を聞いたことがあつて、補助がなかつたら払われへん額。この先恩返しせなつて思つてます。ええかつこじやなしに。せつかく生きたから、いつか何かの形でお返しできたらなつて、心の片隅にずつとあります。